

－授業の様子（複式中学年）－



【板書】

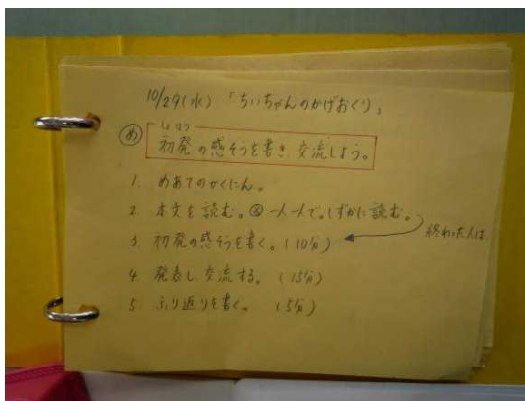
学習リーダー（日直：毎日の輪番制）が、板書しながら話し合いを進めていきます。本校では、1年生から学習リーダーが板書する機会を取り入れるようにしています。



【座席】

3年生と4年生とも「コの字」型の座席を基本にしています。

教師は、両学年の学習の様子を把握するために、真ん中に立ち、臨機応変に支援するようにしています。



【学習のてびき】

学習リーダーは、教師の示した「てびき」を参考にしながら進行します。低学年では、ワークシートを「てびき」として使い、全員で声に出して確認しながら学習を進めることもあります。学年が上がるにつれ、「てびき」を雑にしていけることで、「てびき」なしでの授業をめざしています。

一授業の様子（複式低学年）一



【漢字先生の取り組み - 1年生 -】

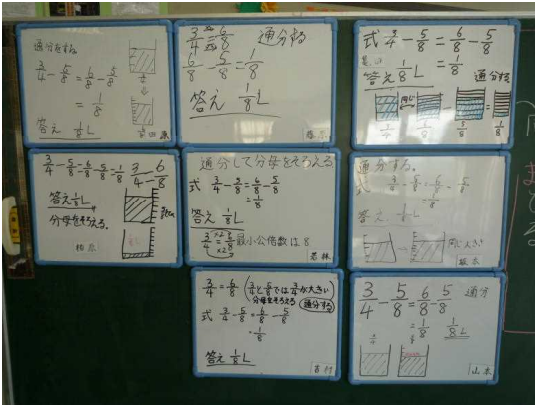
新出漢字の学習は、児童が主体的に進めています。それぞれの漢字の担当の児童が、筆順、総画数、形、読み、言葉などを全員に説明します。それから、個別にノートに練習します。事前の準備も見通しをもって取り組むことができます。



【話し合い - 2年生 -】

何を話し合うかを明確にし、児童が考えを述べるようにします。複式学級では教師がつけなくてもあるので、学習リーダーが考えや意見を板書に残すようにします。それを見て、教師が適切な支援を行うようにしています。また、学習リーダーに自分の言葉でどんな考えが出されたかをまとめさせることもあります。

一授業の様子（複式高学年）一

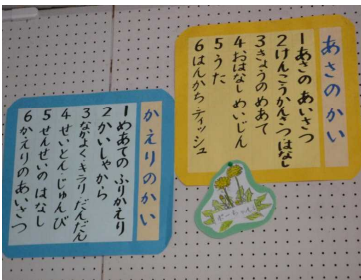


【ホワイトボードの活用】

複式学級は少人数であることから、全員の考えを学習の土俵に挙げることができます。友達の考えと比較したり、考えの種類分けしたりして、共通点や相違点を明確にします。そうすることにより、自力解決を集団解決の場にしていきます。

【教室掲示】

本校、複式学級は「たんぼぼ」をシンボルとしています。低学年・中学年・高学年それぞれの教室の掲示に「たんぼぼ」を飾り、統一感・一体感が出るようにしています。



複式低学年



複式中学年



複式高学年